

屏風に映した静謐な空間

芸術の秋。今秋、注目の 東京国立近代美術館で開か
 日本画家といえ、生誕100周年を記念して、
 40年の記念展が3日まで (7月4日～19日) でしよ
 う。信州飯田の出身で、横
 山大観らと日本美術院で活
 躍し、近代日本画の礎を築



1900年 (紙本彩色・二曲一隻
 屏風、144.7cm×156.0cm)

くも36歳で夭折した天才画
 家です。

当館では、郷土が誇る春
 草の作品蒐集に力を入れ、
 初期から最晩年に至るまで
 36点を所蔵しています。

今回は、その中から「竹
 に猫」を紹介します。

春草といえは、重要文化
 財でもある名作「黒き猫」を
 (東京・永青文庫所蔵)を
 思い浮かべる方も多いと思
 います。意外にも春草は、
 猫が人に媚びる様子を嫌
 い、実はあまり好きではな
 かったといえます。しかし、
 猫を絵にすることは好きだ
 ったようで、短い画業の中
 で描き続けた春草を代表す

る画題です。

本作は、この頃には珍し
 い屏風仕立ての猫作品で
 す。竹林で静かに丸くなる
 猫。画面左の大きな白い花
 を咲かせる山百合をじっと
 見つめています。モチーフ
 を左右に分け中央に余白を
 とった構図は、折り曲げて
 鑑賞する屏風の形態を意識
 したものでしょう。深遠で
 静謐な空間が広がる画面か
 らは、理知的で冷静な性格
 だったという春草の人柄が
 感じられるようです。

「竹に猫」は、当館の所
 蔵品展「菱田春草と信州の
 日本画家たち」(2015
 年1月1日～3月1日)で
 展示します。同時代に活躍

した信州出身の日本画の巨
 匠である西郷孤月(松本
 市)、菊池契月(中野市)
 の作品も展示しますので、
 ぜひこの機会にご覧ください。

【行き方】長野市若里6の2の20。J
 R長野駅から路線バスで約10分。車では
 上信越道長野インターチェンジから約15
 分。開館時間は午前9時30分～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)。月曜休館
 (祝日の場合は翌日)。12月1日から31
 日まで、館内の薫蒸作業で休館する。☎
 026・229・6363。

(水野美術館学芸員

栗林陵)